

## ジベレリン処理によるわい性インゲン増収技術

農業研究センター 天草農業研究所  
担当者：石原稔郎

### 研究のねらい

わい性インゲンの促成栽培・半促成栽培では栽培期間が長期に及ぶため茎葉が込み合い、着花・着莢に悪影響を及ぼしている。また、収穫作業時に姿勢を低くする必要があり、作業の負担が大きい。このため、ジベレリンのわい性インゲンに対する茎伸長等の効果を明らかにし、茎葉の込み合いを緩和すると同時に、莢の品質向上を図る。

### 研究の成果

- 1 インゲンの生育については、初生葉展開後の第1複葉が0.5～1.0葉期に、5 ppm ジベレリン溶液2 ml を茎頂に1回散布することで節間、特に3節～5節の節間が伸長する。
- 2 インゲンの収量については、ジベレリンを散布しない慣行に対して上物収穫本数が1～2割、合計収穫本数も1割増収する。
- 3 インゲンの品質については、ジベレリンを散布すると曲がり莢、くず莢の発生割合が減少し、上物率が5%程度向上する。

### 普及上の留意点

- 1 ジベレリン処理については、処理時期・濃度・回数など、使用基準を厳守する。
- 2 処理時期が早い場合(0.5葉期前)は、十分な伸長が得られず、また、遅い場合(2.0葉期以降)は、中節位の伸長が少なく受光体勢の改善効果が得られないので、処理時期には特に注意する。

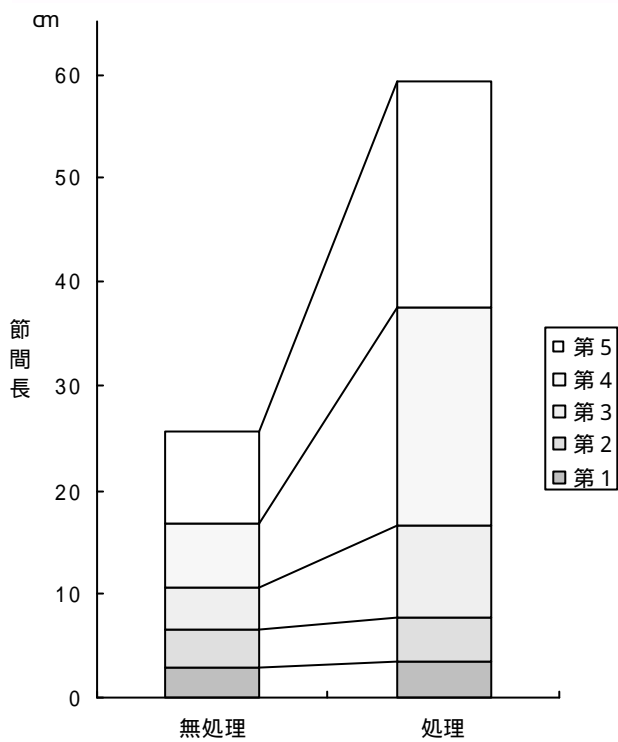


図1 ジベレリン処理による節間伸長の違い

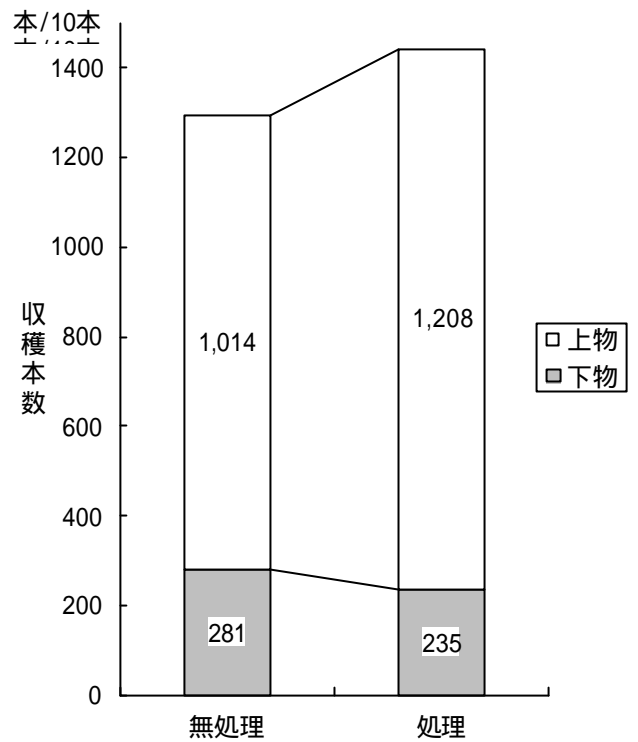


図2 ジベレリン処理による収穫本数の違い

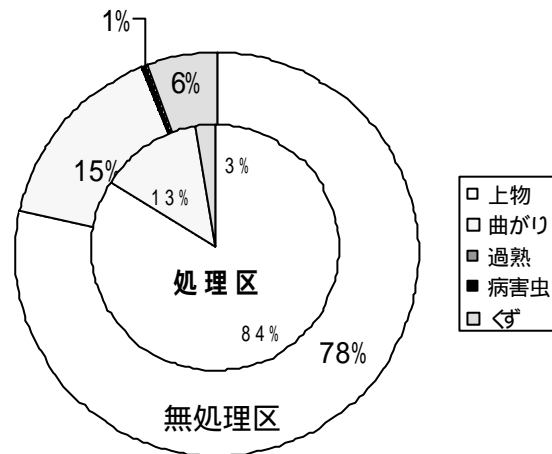


図3 総収量（本数）の内訳



写真1 ジベレリン処理による生育の違い（左：無処理 右：処理）